

人文学学位プログラム (博士後期課程)
Doctoral Program in Humanities

授与する学位の名称	博士(文学) [Doctor of Philosophy in Humanities]	
人材養成目的	人文学の研究・教育を取り巻く環境の変化及びグローバル化に伴う社会の変化に対応するため、哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学などの人文学諸分野における国際的レベルの高度な研究・教育能力を有すると共に、地球規模の新たな問題の発見と解決をめざし、領域横断的な研究を遂行し、学際的な研究・教育に従事できる大学教員、研究者等を養成する。	
養成する人材像	人文学諸分野に関する高度な専門的知識を身につけ、独創的な研究を自立して遂行する能力を有し、現代の諸問題を解決するための広い視野を有する人材。	
修了後の進路	研究職・教育職(大学等の教員、研究所の研究員)。それ以外に、官公庁・自治体職員、国際機関職員、博物館学芸員、学術出版業、教育関連会社、NGO・NPO など。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	大学院共通科目、研究指導科目、論文発表に関する科目、博士論文作成、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表、論文投稿等
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	大学院共通科目、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、インターンシップ科目、達成度自己点検、博士論文作成、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表、論文投稿等
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか	大学院共通科目、研究指導科目、演習科目、研究発表に関する科目、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	研究指導科目、演習科目、大学院共通科目(JAPIC 科目)、TA(大学院セミナー等)経験、プロジェクトの参加経験等
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、外国語の講義科目、外国語の演習科目、外国語文献を利用した博士論文作成、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文投稿等
6. 研究力: 人文学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① 人文学分野における先端的な研究課題を設定する能力を身につけたか ② 人文学分野において自立して研究計画を遂行する能力を身につけたか	大学院共通科目、演習科目、研究指導、博士論文作成、論文投稿、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
7. 専門知識: 人文学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	① 人文学分野における先端的かつ高度な専門知識を身につけたか ② 人文学分野における専門知識の総合的な運用能力を身につけたか	大学院共通科目、演習科目、研究指導、博士論文作成、中間発表、論文投稿、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
8. 倫理観: 人文学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	① 人文学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識を身につけたか ② 専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識を身につけたか	大学院共通科目(生命・環境・研究倫理科目群)、演習科目、研究指導、博士論文作成、中間発表、INFOSS 情報倫理、APRIN e-learning 等

9. 思考力: 専門分野に関する知識及び関連する分野に関する深い学識をもとに、物事を論理的に考え、結論を導き出す能力	専門分野に関する高度な知識及び関連する分野に関する深い学識をもとに、物事を論理的に考え、結論を導き出す能力を身につけたか	演習科目、博士論文作成、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
10. 総合力: 研究成果を人文知の中に位置づけ、広範な視野で研究を遂行する能力	研究成果を人文知の中に位置づけ、広範な視野で研究を遂行する能力を身につけたか	大学院共通科目、演習科目、他学位プログラム科目演習科目、研究指導等
学位論文に係る評価の基準		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマが適切に設定され、意義・位置づけが明確であること。 2. 関連する先行研究を網羅し、批判的検討を加えていること。 3. 研究方法が明確に提示されていること。 4. 論の構成が適切で、実証的、論理的であること。 5. 新たな学術的な知見が含まれること。 6. 学位論文として適切な形式を具え、研究倫理が順守されていること。 <p>・博士論文の審査は、主査1名、副査2名以上で構成される審査委員会を設けて公開で行う。</p>		
カリキュラム・ポリシー		
<p>哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学の9領域を横断する人文学の高度な研究力・先端的な専門知識・深い倫理観とともに、人文社会科学の幅広い基礎的素養、人文社会ビジネスにわたる広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。</p>		
教育課程の編成方針	<p>学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、大学院共通科目、研究群共通科目から1単位を履修することを推奨する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目などにより、未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力を身に付ける。 ・大学院共通科目などにより、俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力を身に付ける。 ・大学院共通科目などにより、学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力を身に付ける。 ・大学院共通科目などにより、リーダーシップを発揮して目的を達成する能力を身に付ける。 ・大学院共通科目などにより、国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲を身に付ける。 ・大学院共通科目、専門科目(演習科目)、研究指導、博士論文作成、学会発表などにより、人文社会科学分野及び人文学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力を身に付ける。 ・大学院共通科目、専門科目(演習科目)、研究指導、博士論文作成、学会発表などにより、人文社会科学分野及び人文学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力を身に付ける。 ・大学院共通科目(生命・環境・研究倫理科目群)、専門科目(演習科目)、研究指導などにより、人文社会科学分野及び人文学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識を身に付ける。 ・専門科目(演習科目)、博士論文作成、学会発表などにより、専門分野に関する高度な知識及び関連する分野に関する深い学識をもとに、物事を論理的に考え、結論を導き出す能力を身に付ける。 ・専門科目(演習科目)、研究指導などにより、研究成果を人文知の中に位置づけ、広範な視野で研究を遂行する能力を身に付ける。 	
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時、加えて年度当初に、学生の個々の研究テーマに基づき「履修計画」および指導体制を設定し、授業履修、研究指導を行う。 ・各年次の演習科目を中心に、より高度で幅広い専門知識を得ながら、自らの研究を構築し、プレゼンテーションを行うことで、汎用コンピテンス「知の創生力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ力」「国際性」、専門コンピテンス「研究力」「専門知識」「思考力」「総合力」を身に付ける。演習科目とともに研究指導を通じて、専門コンピテンス「倫理観」を身に付ける。 	
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンス修得に係る評価は、2年次終了時に修得状況を指導教員が確認し、それに基づき、3年次に履修指導を行い、博士論文予備論文提出時に以下のすべてのコンピテンスを満たしているか、評価をする。修得基準は学生に対して別途提示する。 <p>知の創成力 マネジメント能力 コミュニケーション能力 チームワーク力</p>	

	<p>リーダーシップ力 国際性 研究力 専門知識 倫理観 思考力 総合力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年後半に学会発表、論文投稿の状況、博士論文概要に基づき、主指導教員、副指導教員が中間評価を行う。 ・3年次前半に博士論文予備論文について、主指導教員、副指導教員が予備審査を行う。 ・博士論文の審査は、主査1名、副査2名以上で構成される審査委員会を設けて公開で行う。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>人文学諸分野への強い関心、研究課題に真摯に取り組む情熱、研究に必要な専門的知識、語学力、論理的思考力、論述力を持ち、専門性を追求するのみならず、自らの研究を人文学の中に位置づけ、学際的な新たな領域を開拓する意欲を持つ人材を求める。</p>
入学者選抜方針	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、専門科目の筆記試験、並びに口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た哲学・思想、歴史・人類学、文学、言語学、現代文化学、英語教育学など人文学に関係する分野から1つを選択し、外国語(1カ国語)で書かれた専門文献を使った設問を含む出題を行い、人文学諸分野の研究に必要な専門的知識、論理的思考力、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に必要な語学力を判定する。口述試験は、提出された修士論文(ないしはそれに準ずる論文)や研究計画書等を参考としつつ、志願者の研究しようとしている分野の専門的知識、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。提出書類のうち、修士論文により、専門分野に関する論述力を判定する。